

道南唯一のアサリ干潟をまもる取組

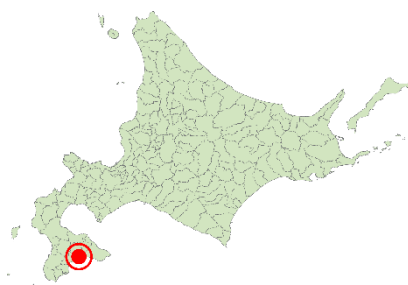
北斗市アサリ漁場環境保全活動組織

地域の特徴と課題・目標

北斗市は、函館湾及び津軽海峡に面しており、わが国有数の観光地である函館に隣接する。また、市内には、北海道新幹線第一の駅「新函館北斗駅」が立地する。湾内沿岸部では、ホッキ突き漁が盛んに行われ、湾中央部にかけての定置網では、ニシンやサクラマス、サケなどが漁獲されている。

当地区には、道南唯一のアサリ漁場が存在し、潮干狩りが初夏の風物詩であった。しかし、環境変化も相まってアサリの資源量が平成14年ごろから急激に減少し、資源管理の強化が求められた。

そこで、一定期間、干潟を全面禁漁にし、資源量調査を実施し、資源増殖のために種苗放流を施した。そのうえで、アサリ資源の向上とそれを含む干潟環境の保全を目指し、本事業が立ち上がった。



活動内容

(1) 耕うん

耕うんをしないと石の下が黒くなり、その下には殻や死骸がたまる。耕うんは、石を人力で一つ一つ動かし、その下を剣先スコップや熊手などで掘り起こす方法で行っている。また、食害生物であるイボニシを見つけたら、随時除去する。

実施時期は、当地のアサリの産卵盛期前である6月下旬から7月中旬に設定している。

また、耕うんと併せて、漁場改良剤を散布している。これは、稚貝の着底基質の添加と、土壌改良の意味合いを持つ。ここで、土壌改良は、還元状態になった底質を改良剤の散布によって中和することをいう。



耕耘の様子



漁場改良剤散布の様子

(2) 客土

土壌の流出によって失われた干潟を復活させるために、一地区で客土による干潟造成を平成30年から実施している。

客土する砂利は周辺海域と類似するものを指定している。

まだ、造成途中で資源の定着は確認できていないが、成果がこれから現れるのではと期待している。



客土の様子

活動の成果と今後の課題・方針

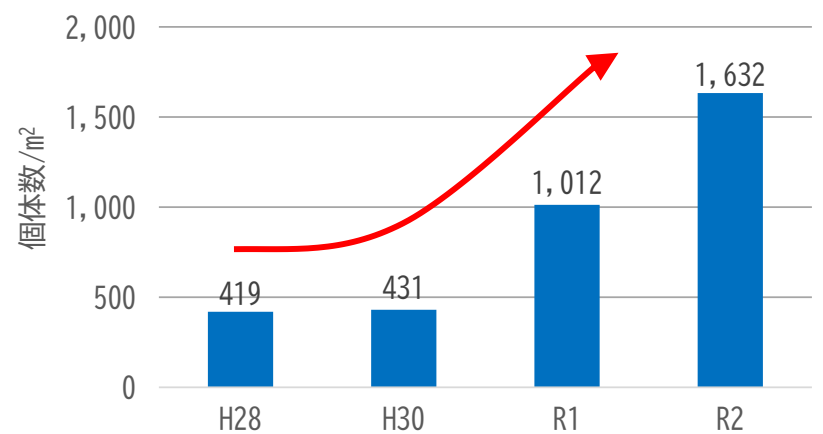
活動の効果を確認するモニタリングは、3月の干潮日に、1m 方形枠内のアサリの個体数を計測することで実施している。

直近4ヶ年のモニタリング結果によると、アサリの生息密度は平成30年以降顕著に増加しており、活動の成果が現れている。また、効果は個体数の増加のみならず、個体の大型化や肥満度の向上も実感している。



モニタリング調査の様子

モニタリング結果



現在、継続した活動により一度は壊滅しかけたアサリ資源が一定の水準まで回復している。また、保全活動に併せて、適切なアサリ資源の管理を模索したことで、アサリを漁業資源として利用できるようになり、地元の生協で取り扱われるようにまでなった。

一方、当地においては①活動体制の構築と、②アサリ資源を維持するための取組の持続化について課題を抱えている。

まず、活動体制の構築については、活動時期が本業の漁業種類の盛期と重複しているために、活動参加者を十分に集めることが難しい構造的な課題を持っている。

次に資源維持のための取組の持続化については、資源量の回復が示唆される一方で、高齢化と担い手不足により、耕うんなどの干潟の管理が十分に実施できなくなる可能性がある。

これに対する対応として、事業外ではあるものの、地元の小学生に環境学習の機会を提供することで、将来の担い手確保対策としている。潮干狩りを体験させ、熊手の使い方・選別機・食害生物とその駆除をレクチャーする。

漁業者を維持・確保することは、漁場保全体制が強固になることを意味する。これらの活動が実を結び、漁業者も一般市民も恩恵が得られるような道南唯一のアサリ干潟を維持することを、今後も目指していく。